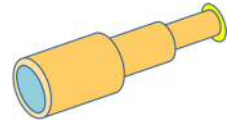
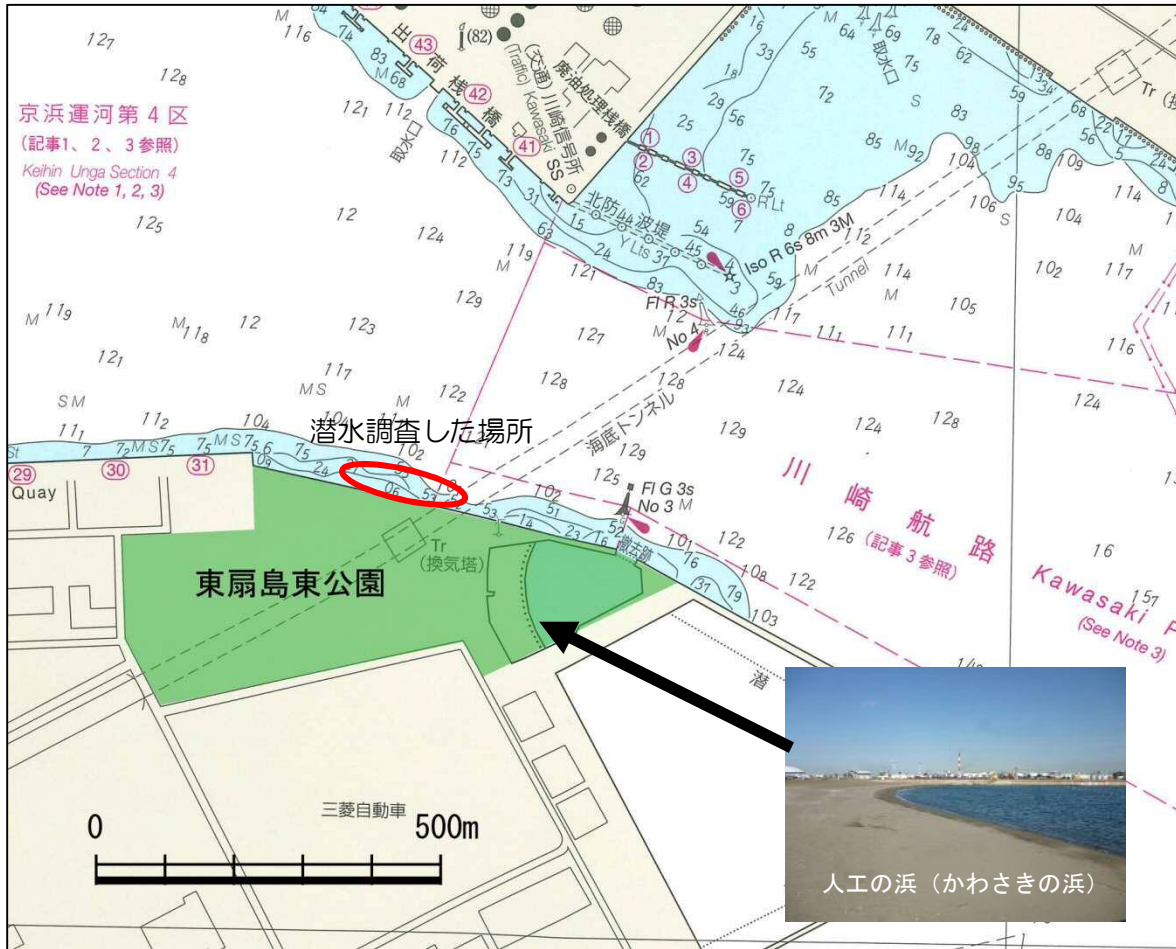


4. 海底地形

調査はコンクリート護岸の前の少しだけ浅くなっている場所で行いました。船の航海に使用される海図で海底地形をみてみましょう。



東扇島東公園



調査した場所の海底地形

図は海図W67「京浜港川崎」(海上保安庁発行)を使用しました。

注) 図中の数字は水深(m)を示します。水色の部分は水深10mより浅い範囲で、白色の部分は水深が10mより深い範囲を示します。



公園の前はコンクリート護岸です。護岸に近いところは水深が5~7mですが(図中の水色の部分)、川崎航路(船が通るところ)は水深が12mまで深くなっています(図中の白色の部分)。公園は、一部護岸を取り外し、護岸の内側には人工の浜(かわさきの浜)が造られています。

東扇島西公園



調査した場所の海底地形

図は海図W67「京浜港川崎」(海上保安庁発行)を使用しました。

注) 図中の数字は水深(m)を示します。水色の部分は水深10mより浅い範囲で、白色の部分は水深が10mより深い範囲を示します。



公園の前はコンクリート護岸です。水深はだいたい6~7mです。護岸から離れると航路は15~20mまで深くなっています。扇島水路は、大型船舶が入港するために水深が20m以上あり、深く掘り込まれています。まわりの海底より一段と深い場所には水温が低く、酸素が少ない水がたまりやすいため、魚にとっては住みにくい場所です。

浮島つり公園



調査した場所の海底地形

図は海図W67「京浜港川崎」(海上保安庁発行)を使用しました。

注) 図中の数字は水深(m)を示します。水色の部分は水深10mより浅い範囲で、白色の部分は水深が10mより深い範囲を示します。



公園の前はコンクリート護岸です。水深はだいたい6~7mぐらいで、公園の前の海底には広く浅い場所が広がっています。海底はほとんどが泥で、少し砂が混ざっているところもあります。海底の泥の中にはサルボウガイやホンビノスガイなどの二枚貝が潜っています。また、海底にはマハゼやネズッポ科の魚がいます。

ちどり公園



調査した場所の海底地形

図は海図W67「京浜港川崎」(海上保安庁発行)を使用しました。

注) 図中の数字は水深(m)を示します。水色の部分は水深10mより浅い範囲で、白色の部分は水深が10mより深い範囲を示します。



公園の前はコンクリート護岸です。干潮時に干上がる場所がわずかにありますが、だいたいは水深が5~10mです(図中の水色の部分)。京浜運河部分は大きな船が通るために水深が12mと深くなっています(図中の白色の部分)。4カ所の公園のなかで最もたくさんの生きものがみつけられました。